

# 53rd RECITAL 【1985年(昭和60年)1月20/26/27日】

人見記念講堂/神戸文化ホール/フェスティバル

KWANSEI GAKUIN GLEE CLUB



\*53rd 関西学院  
グリークラブリサイタル

## 男声合唱組曲「蛙・第二」

### 男声合唱組曲「蛙・第二」について

草野心平先生の詩は、男声合唱によく以合う。そんな先生の詩に惹かれて、私は、昭和31年に「富士山」、昭和36年に「草野心平の詩から」、昭和43年に「蛙」と「北斗の海」、昭和56年に「蛙・第二」、昭和57年に「草野心平の詩から・第二」の6つの男声合唱組曲を作曲して来た。

今宵演奏される男声合唱組曲「蛙・第二」は、第30回東京六大学合唱連盟記念演奏会の合同演奏曲として委嘱され、作曲したものだが、心の中で、どのグリークラブが後日、これを単独で演奏するかな、と楽しみにしていた。私もそのファンの一入である関西学院グリークラブが、初演のときと同様、北村協一先生の指揮で、私のこのひそかな想いを実現してくれて、大変嬉しい。

演奏会のご成功と、今後ますますのご発展を祈る。

多田 武彦

### 蛙たちのコーラス

広東の河南島に、私の母校嶺南大学(現在の中山大学)はあったが、二十歳前後の私が経験した強烈な印象の一つはbullfrogたちのコーラスだった。キャンパスのなかにあった池にそれらは沢山住んでいたが、6・7月の特に夜はそのコーラスが凄く盛りあがった。

その度ごとに私は不思議なことを経験した。

ブルフロッグたちの猛烈な合唱に合せて、遠くニッポンの殿様蛙たちのコーラスが必ずきこえることだった。私の生れ故郷、福島県・阿武隈山地の小さな村の水田の、それらは自分の少年時代にきいたコーラスだったが、まるでノスタルジヤそのもののように、ブルフロッグたちのコーラスの背景になったり、高くはないがいやに透明な合唱になって、コーラスの中心を流れたりするのだった。(1984.11.25)

草野 心平

V  
男声合唱組曲  
「蛙・第二」

誕生祭  
たまごたちのいる風景  
河童と蛙  
ごびらっふの独白  
勝手なコーラス  
亡霊

作詩  
草野 心平  
作曲  
多田 武彦  
指揮  
北村 協一